

(2) 社会

ア 個々の問題の概要及びその通過率

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	通過率(%)	備考
地理A(1)ア	1	(1) 緯度0度が赤道であることを理解している。	知・技	92	
地理A(1)ア		(2) 略地図を参考に、地球上の位置を指摘することができる。	知・技	33	
地理B(1)ア		(3) 世界の主な宗教の分布について理解している。	知・技	78	
地理A(1)イ		(4) 略地図から経度を読み取り、ロサンゼルス時刻を指摘することができる。	思・判・表	31	○
地理B(2)イ	2	(1) 資料から、西岸海洋性気候であるロンドンの正しい雨温図を指摘している。	思・判・表	47	
地理B(2)ア		(2) 資料から、冬の温暖な気候に影響を与えている暖流と偏西風を理解している。	知・技	70	
地理B(2)イ		(3) 資料を読み取り、歴史的背景が現在の姿につながっていることを表現している。	思・判・表	67	
地理B(2)ア		(4) 白豪主義を理解している。	知・技	55	
地理B(2)イ		(5) EUに加盟することと、経済が活性化することの関連性を表現している。	思・判・表	55	
地理B(2)イ		(6) 複数の資料から、2004年以降にEUに加盟した国々の1人あたり国民総所得が低いことを条件に沿って表現している。	思・判・表	52	○
地理A(2)ア	3	(1) 北方領土、竹島、尖閣諸島が、どの都道府県に所属しているか理解している。	知・技	26	
地理A(2)ア		(2) 中部地方をさらに区分した地域の名称を理解している。	知・技	63	
地理A(2)イ		(3) 日本の領海・排他的経済水域の面積が領土のわりに大きい理由を表現している。	思・判・表	57	○
歴史B(1)ア	4	(1) ① 縄文時代の人々が住んでいた住居が、たて穴住居であることを理解している。	知・技	95	
歴史B(1)ア			② 縄文時代の社会の様子について、指摘することができる。	知・技	69
歴史B(1)ア		(2) 資料中に述べられている国が邪馬台国であることを指摘している。	知・技	46	
歴史B(1)イ		(3) 資料3中の国を、資料4から指摘することができる。	思・判・表	26	
歴史B(1)イ		(4) 複数の資料から大和政権の勢力範囲について説明することができる。	思・判・表	45	○
歴史B(1)ア	5	(1) 九州全体の政治、外交・防衛にあたった役所は大宰府であると指摘することができる。	知・技	21	
歴史B(1)イ		(2) 示された飛鳥時代から奈良時代にかけてのできごとについて、歴史の流れにしたがって適切に並べ替えることができる。	思・判・表	12	
歴史B(1)イ		(3) 遣隋使が派遣された目的を文章で表現することができる。	思・判・表	47	○
歴史B(1)ア		(4) 8世紀に作られた歴史書は「古事記」と「日本書紀」だと指摘できる。	知・技	43	
歴史B(2)ア	6	(1) 朝廷を監視するために承久の乱後に置かれた役所は六波羅探題であることを指摘することができる。	知・技	51	
歴史B(2)イ		(2) 勘合が用いられた理由を文章で表現することができる。	思・判・表	54	
歴史B(2)イ		(3) 中世の時代に農作物の収穫が増えた理由として当てはまらない内容を指摘することができる。	思・判・表	23	
歴史B(2)ア		(4) 語句 資料を基に、書院造を指摘することができる。 記号 銀閣が造られたのは、室町文化の頃であると指摘することができる。	知・技	62	
歴史B(2)イ		(5) 中世の時代に関連する複数の歴史資料を調査項目ごとに適切に分類することができる。	思・判・表	47	○

※備考欄の「○」は、各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見い出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した問題。

評価の観点	知・技	思・判・表
通過率	57	43

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	備考	東青管内			西北管内				
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡		
①	(1)	赤道の理解		92	92	94	90	87	89	93
	(2)	地球上の位置の指摘		39	39	29	33	38	33	29
	(3)	世界の主な宗教の理解		81	80	88	76	75	81	75
	(4)	ロサンゼルス時刻の指摘	○	38	38	42	31	34	35	26
②	(1)	ロンドンの雨温図の指摘		50	50	57	48	45	48	52
	(2)	暖流と偏西風の理解		74	74	75	69	67	71	71
	(3)	アフリカ州の歴史的背景の説明		68	67	73	72	72	78	70
	(4)	白豪主義の理解		56	57	32	59	54	66	61
	(5)	E U加盟国と経済との関連性の表現		59	59	55	51	51	56	48
	(6)	2004年以降のE U加盟国の一人あたりの国民総所得が低い理由の説明	○	52	52	43	50	51	51	47
③	(1)	領土問題の理解		28	28	24	28	24	29	32
	(2)	中部地方の地域区分の理解		64	64	66	65	60	69	68
	(3)	日本の領海・排他的経済水域の面積と領土の関係の説明	○	55	56	42	51	51	44	55
④	(1)	① たて穴住居の理解		95	95	97	97	95	98	98
		② 縄文時代の社会の様子の指摘		71	70	74	69	64	75	69
	(2)	邪馬台国の指摘		51	51	58	41	40	42	42
	(3)	5世紀ごろの東アジア情勢の理解		27	26	36	28	30	40	20
	(4)	大和政権の勢力範囲の説明	○	44	44	44	51	50	48	53
⑤	(1)	大宰府の指摘		26	27	17	17	17	12	19
	(2)	飛鳥時代から奈良時代にかけての出来事の並べ替え		13	13	13	10	8	9	13
	(3)	遣隋使が派遣された目的の表現	○	50	49	58	43	42	42	45
	(4)	8世紀に作られた歴史書の指摘		46	46	44	41	42	40	40
⑥	(1)	六波羅探題の指摘		51	51	55	42	38	31	53
	(2)	勘合が用いられた理由の表現		56	56	56	59	55	68	57
	(3)	中世の農業の様子の理解		24	25	19	20	20	18	21
	(4)	書院造と室町文化の指摘		64	64	61	61	65	51	62
	(5)	室町時代に関連する資料の分類	○	49	49	47	45	42	48	47
教科全体				53	53	52	50	49	51	51

※備考欄の「○」は、各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した問題。

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内		三 八 管 内		県全体			
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
90	89	89	93	94	93	93	94	94	92	93	86	94	94	94	92
31	32	23	30	34	34	36	36	31	28	30	22	28	28	26	33
76	75	76	73	78	80	79	82	80	72	75	62	77	78	74	78
31	30	34	30	32	31	34	33	27	28	27	29	27	28	22	31
45	44	41	46	49	48	51	58	42	41	41	40	48	48	44	47
68	70	69	64	67	71	77	75	65	63	62	64	67	67	67	70
65	62	67	73	69	73	73	84	67	51	55	38	65	65	66	67
47	45	34	66	43	64	60	74	64	58	60	53	52	49	63	55
54	53	55	61	50	58	58	61	58	45	47	39	56	57	51	55
54	54	45	59	55	55	63	53	50	45	49	33	53	53	51	52
28	29	26	27	28	26	30	33	20	24	25	21	20	20	21	26
61	62	54	58	62	68	73	73	63	56	56	59	62	62	61	63
63	63	63	63	59	59	65	54	57	44	49	27	57	57	59	57
94	94	94	95	90	95	94	97	96	93	95	88	95	95	94	95
66	64	75	66	66	73	78	70	70	58	60	53	71	72	69	69
42	41	42	45	43	51	54	51	48	39	44	25	46	46	46	46
24	26	11	26	27	26	32	22	24	19	21	13	26	26	25	26
32	27	39	42	43	58	55	68	55	41	44	29	47	47	47	45
18	22	13	13	12	21	24	26	17	18	17	22	22	22	20	21
13	13	10	13	10	13	11	17	12	9	10	6	12	13	11	12
41	40	29	58	39	49	46	50	50	38	41	28	51	51	50	47
40	42	36	35	41	41	42	39	41	31	32	27	46	46	43	43
51	46	71	64	42	62	65	63	59	58	63	42	44	42	52	51
49	44	63	65	45	58	56	72	54	43	46	33	53	53	55	54
25	25	23	25	26	22	21	24	23	23	25	19	21	21	20	23
59	57	55	69	61	66	67	67	64	65	69	53	61	61	61	62
45	44	44	55	45	49	50	52	46	48	49	44	48	48	44	47
49	48	47	52	48	54	55	57	51	46	48	39	50	50	49	51

※通過率(%)は、「総正解数/総解答数」で算出した数値の小数第1位を四捨五入した整数値で表しています。

ウ 個々の問題の主な誤答例

問題番号		通過率 (%)	主な誤答例(無答を含む) (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%であり、調査全体の誤答の割合とは異なる)
①	(2)	33	無答 (16.0) 緯度〇度、経度〇度【南緯、東経の記述がなく、緯度、経度を正しく読み取っていない】 (12.0) 南緯〇度、東経〇度【南緯、東経の記述はあるが、緯度、経度を正しく読み取っていない】 (10.0) 緯度30度、経度60度【緯度、経度は読み取っているが、南緯、東経の記述がない】 (8.0)
②	(1)	47	イの雨温図 (マナオス) を選択 (21.0) ウの雨温図 (ブエノスアイレス) を選択 (19.5) エの雨温図 (ヘルシンキ) を選択 (5.5) その他の誤答(0.5)
③	(1)	26	②【竹島】 (49.0) ②【竹島】と③【尖閣諸島】 (7.5) ③【尖閣諸島】 (5.5) 無答 (2.5) ①【北方領土】と②【竹島】 (2.0) その他の誤答 (1.5)
④	(2)	46	倭または倭国 (17.0) 魏 (8.0) 無答 (7.0) 中国 (3.0) 宋 (3.0) 奴国 (2.0) 漢 (1.5) 京都 (1.0)
⑤	(2)	12	ウ→イ→エ→ア (12.5) エ→ウ→ア→イ (11.5) ウ→ア→イ→エ (8.5) ウ→エ→イ→ア (8.5) 無答 (1.0) その他の誤答 (45.5)
⑥	(3)	23	ア「役人、武士、僧による土地開発」を選択 (48.5) イ「鉄製農具の広まり、草木灰」を選択 (16.0) エ「二毛作、かんがい、堆肥」を選択 (9.5) 無答 (2.0)

エ 今後の指導について

○課題の見られた問題 I(2)

○出題のねらい

略地図上に示された緯度、経度を読み取り、Xの位置を指摘することができるかを判断する問題である。出題の意図は、略地図中のXの位置について、緯度と経度を用いて表せるようにするとともに、赤道、本初子午線、北半球、南半球などの意味を理解しているかを図るために、地球上の位置を表す際に「南緯」「東経」を用いて指摘する問題とした。

○分析結果と課題

分析の結果、無答または緯度と経度を読み取ることができなかつた誤答、「南緯」「東経」を用いることができなかった誤答（「緯度〇度、経度〇度」）が多く見られた。

原因として、「緯線や経線が何度を示すかが分からない」、「赤道、本初子午線、北半球、南半球などの意味を理解していない」という2点が考えられる。

課題として、地球上の絶対的位置を表す際に、「北緯・南緯、東経・西経」を用いることや地図上の緯線や経線の本数を基にして緯度や経度を読み取る学習活動が不足していることが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、赤道、本初子午線、北半球、南半球などの意味を理解させた上で、地球儀や地図等を活用した作業的・体験的な活動を通して地球上の位置を緯度・経度を用いて表す技能を身に付けさせることが必要である。その際、ICTを用いて北緯・南緯、東経・西経の位置を視覚的に捉えさせる学習も効果的である。また、地理的技能の習得状況を見取り、必要に応じて繰り返し学習するなど、指導と評価の一体化の視点に立った授業改善を行うことも大切である。

指導例

対話的な学びを通して絶対的位置を理解させる指導

～単元名「地球上の位置を表そう」～

【指導の流れ】

1 本時の学習課題を設定させる。



外国の人にこのように質問されたら、あなたはどのように説明しますか？

日本は、地球のどこにあるのですか？

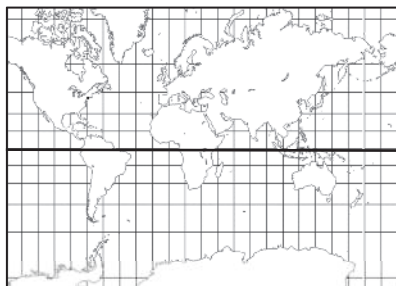


<学習課題> 地球上の日本の位置をどのように説明すればいいだろうか

2 赤道・本初子午線、北緯・南緯、東経・西経、緯度・経度について確認させる。

学習活動①

緯線の基準となる赤道を地図上で確認し、地球上の位置を予想して記入させ、それぞれの考えを説明する。その後、それぞれの考えを説明し合い、根拠を修正しながら正しい位置を全員で確認するための話し合いを行う。



北緯30度、東経120度の位置に○をつけてみましょう。

北緯だから赤道より北にあるのは分かるけど、経線の基準はどこかな？



経線の基準となる線は本初子午線といってイギリスのロンドンを通っているよね。東経だから、本初子午線よりも東にあると思うよ。



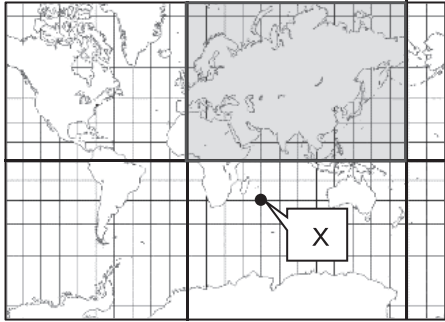
学習活動②

ICTを活用しながら、北緯・南緯、東経・西経の位置と北緯30度、東経120度の位置を確認する。

ポイント

赤道と本初子午線を引くことによって見えてくる北緯・南緯、東経・西経の位置を、ICTを用いて提示する。それぞれを色分けして視覚的に捉えさせ、主な国の位置を北緯・南緯、東経・西経を用いて表現させる。

学習活動③ 赤道と本初子午線を基準として、緯線・経線が何度ごとに引かれているか確認する。



赤道から一番上と下の線まで線が何本引かれていますか。また、本初子午線から180度の線まで線が何本引かれていますか。

赤道をはさんで上下に6本、本初子午線からは12本の線が引かれているよ。



そうすると、緯線と経線は15度ごとに引かれていることになるね。



緯線と経線が15度ごとに引かれていると考えると、それぞれの線の緯度と経度が分かるよね。それじゃあ、Xの位置はどのように表すことができるかな？

15度ごとに引かれているから、緯度は30度、経度は60度になるね。さっき確認したことと関連付けると、Xの位置は南緯30度、東経60度と表すことができるわね。



ポイント

学習活動②・③で確認したことを関連付け、位置を表す際には、北緯・南緯、東経・西経、緯度・経度を用いることを理解させる。

3 地図帳を見て、日本の位置を説明させる。



これまで学習したことを生かして、日本の位置を表してみましょう。

日本は北緯20度から46度、東経122度から154度までの間に位置していることになりますね。



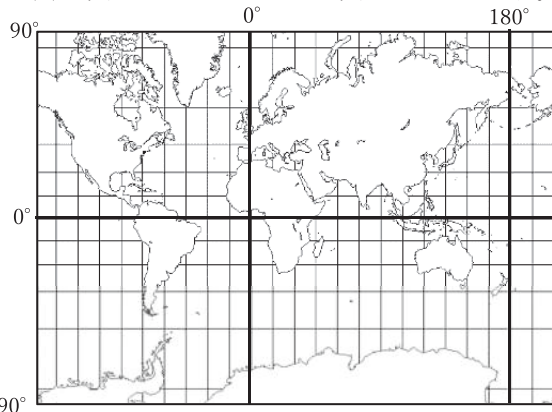
ポイント

日本のおおよその位置の範囲を、北緯・南緯、東経・西経、緯度・経度を用いて表現させ、「日本の姿」の学習につなげさせる。

4 地図帳からある国を選び、位置を問うクイズを考え、ペア（グループ）で問題を出し合わせる。

学習活動 下の条件に合わせて北緯・南緯、東経・西経、緯度・経度を用いて表す練習をする。

- (1) 問題A・Bは地図上に点をうつ。
- (2) 問題C・Dは()に当てはまる語句と数字を記入する。※教師が意図的に設定する。
- (3) 問題E・Fはペアで問題を出し合う。



A	北緯 30 度、東経 120 度
B	南緯 45 度、西経 75 度
C	() 緯 () 度、() 経 () 度
D	() 緯 () 度、() 経 () 度
E	
F	

ポイント

緯度・経度を問うA～Fの問題に取り組ませることにより、本時の学習の定着度を確認する。

○課題の見られた問題 ⑥(3)

○出題のねらい

中世の時代に農作物の収穫が増えた理由として当てはまらない内容を指摘する問題である。出題の意図は、中世の土地開発と農業技術の発達との関わりに気づき、社会の様子を判断できるかを問う問題とした。

○分析結果と課題

分析の結果、約半数の生徒が誤答である選択肢ア（役人や武士、僧が中心になって土地を開発した）を選んでいった。

原因として、「中世の土地開発と歴史的な背景を関連付けられていない」「古代と中世の農業の特色や、土地の支配の仕組みの違いを把握できていない」という2点が考えられる。

課題として、政治の動きを社会の様子と関連付けて思考・判断する力や、各時代の特色を他の時代と比較して捉える活動が不足していることが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、時代の特色を多面的・多角的に考察し、他の時代との相違点に着目させながら、学習内容を比較・関連付けて、自分の言葉で表現する活動の工夫が必要である。

指導例

中世の時代の特色を考察、表現させる指導
～単元名「鎌倉時代のまとめ」～

【指導の流れ】

1 鎌倉時代について、今まで学習したことを振り返らせる。

学習活動① 前時までに学習した鎌倉時代の重要語句をノートに書き、全体で確認する。

《挙げられた既習事項》

守護 地頭 御恩 奉公 御家人 執権 六波羅探題 承久の乱 御成敗式目
二毛作 定期市 元寇 徳政令

学習活動② 上記のうち下線を引いた語句の説明として（ ）に当てはまる語句をグループで予想し、全体で確認する。

- ・地頭…幕府が（ ）ごとに配置し、現地を管理・支配する。
- ・御恩…将軍は以前から所有していた（ ）を保護したり、新しい（ ）を与えたりした。
- ・承久の乱…幕府は上皇に味方した貴族や西日本の武士の（ ）を取り上げ、その場所の地頭に東日本の武士を任命した。
- ・御成敗式目…武士が20年の間、実際に（ ）を支配しているならば、その権利を認める。
- ・二毛作…農民は同じ（ ）で米と麦を交互に作る。
- ・徳政令…幕府は御家人の借金を取り消し、手放した（ ）を取り返させた。

ポイント

学習活動②を行うことで、中世の時代は、政治の中心が天皇や貴族から「武士」へと変化したことに加えて、「土地」の支配の仕組みにも変化があったことに気付かせる。

2 課題を追究させる。

学習活動① 学習課題に対して予想する。



中世になると「武士」が活躍し政治の中心となりましたが、「土地」の支配の仕組みは古代と比べて、どのように変化したのでしょうか。



自分の土地を広げるため、戦いが増えたのではないかな。

領主や農民も自分の土地を守ろうと武装したのではないかな。

戦いが多くなって、農地が荒れてしまったのではないかな。



ポイント

生徒から出された予想を、既習の知識と関連付け、学習内容の深い理解につなげさせる。

学習活動②

まとめる視点①「土地の所有者」、②「納める税」、③「問題点」を示し、グループごとに調べた内容をもとに考察する。

「土地」の支配の仕組みは、どのように変化したのだろうか		
	古代（主として飛鳥・奈良時代）	中世（主として鎌倉時代）
所有者	<ul style="list-style-type: none"> ・国のもの（公地・公民） ・6歳以上の人々に口分田があたえられた <p style="text-align: right;">口分田</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の私有が認められている ・地方の役人、僧、武士などが土地を所有し、支配していた農民に開墾させた <p style="text-align: right;">荘園</p>
税	<ul style="list-style-type: none"> ・租、調、庸 <p>（戸籍に登録している人に税を課す）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年貢 <p>（耕している土地に税を課し、農民が所有者に納めた）</p>
問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・重い税の負担 ・土地をはなれる人が多い ・戸籍のいつわり <p>→律令国家の仕組みがくずれる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・武力を使って農民に新しい負担を強制 ・領主に断りなく土地や農民を勝手に支配 <p>（→下地中分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領主と武士による二重支配（→御成敗式目） ・分割相続がくり返されることで私有地が減り、生活が苦しくなる（→徳政令）



古代の土地は国のものだったけど、中世になると「個人の私有地」へ変わったんだね。

土地の支配をめぐるって、武士の影響力が徐々に高まってきているわ。



3 幕府が出した2つの法令について、多角的に評価させる。



土地の支配の仕組みについて、鎌倉幕府が出した「御成敗式目」と「徳政令」を評価してみよう。

学習活動

2つの法令を「御家人」「領主」「借金を帳消しにされた人」の立場から評価する。



御家人に有利な仕組みだけど、養子による相続を認めたことで土地が不足し生活が苦しくなったわ。御家人は徳政令で借金が帳消しになり、手放した土地を取り返したけど苦しい生活は続いたわ。



借金を帳消しにされた人にとっては、貸したお金が戻ってこなかったり、御家人の手放した土地を返すことになったりするなど、不満が大きくなるね。

御家人に有利な仕組みなので、もともとの領主にとっては不満が大きいわ。



ポイント

時代の特色を多面的・多角的に考察し、他の時代との相違点に着目させながら、学習内容を比較・関連付け、学習内容を深めさせる。